

2022年度 アンケート方法・回答者数など

■調査の目的・方法■

本学では、学生の考えや行動を把握し教育環境の質を向上させ、学生の満足度を高めることを目的として、学生を対象としたアンケート調査を実施してきました。

調査はWEBアンケートシステムを用いて行い、毎年学生の半数以上が回答しています。今年度は**51.36%**の回答率となりました。(表-1)

(1) 調査の対象 2022年度 本学在籍学生

(2) 調査の方法 WEBアンケートシステム(無記名)を利用し学生個々が回答した。

(3) 実施期間 2022年12月12日(月)～2023年1月13日(金)

(4) 回答者の基本情報

表1 回答者の基本情報

2022年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	991人	108人	150人	156人	106人	149人	67人	116人	139人	247人	744人
回答者数	509人	40人	94人	70人	56人	115人	38人	53人	43人	83人	426人
回答率	51.36%	37.04%	62.67%	44.87%	52.83%	77.18%	56.72%	45.69%	30.94%	33.60%	57.26%

【参考】2019～2021年度の基本情報

2021年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	1205人	140人	169人	178人	107人	216人	80人	134人	181人	321人	884人
回答者数	735人	67人	108人	108人	85人	123人	58人	93人	93人	160人	575人
回答率	61.00%	47.86%	63.91%	60.67%	79.44%	56.94%	72.50%	69.40%	51.38%	49.84%	65.05%

2020年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	1123人	136人	160人	175人	111人	174人	73人	128人	166人	302人	821人
回答者数	567人	60人	92人	88人	73人	81人	47人	62人	64人	124人	443人
回答率	50.49%	44.12%	57.50%	50.29%	65.77%	46.55%	64.38%	48.44%	38.55%	41.06%	53.96%

2019年度	全体	国際英語	史	心理	日本文化	幼児教育	児童教育	生活文化	観光文化	目白C	我孫子C
学生数	1119人	130人	151人	151人	98人	235人	63人	134人	157人	287人	832人
回答者数	605人	79人	71人	89人	46人	150人	28人	56人	86人	165人	440人
回答率	54.07%	60.77%	47.02%	58.94%	46.94%	63.83%	44.44%	41.79%	54.78%	57.49%	52.88%

2022年度 満足度について

■調査と検証方法■

「満足度」や「大学への帰属意識」の設問は14問あります。（下図参照）各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証においては回答をポイント化（「あてはまらない」=1、「ややあてはまらない」=2、「ややあてはまる」=3、「あてはまる」=4）し、その平均を過去4年の回答と比較しました。2022年度の調査対象者数991名、回答率51.36%を検証しました。

■検証■

卒業生の在学期間の変遷の回答を1年生時（橙）、2年生（黄）、3年生時（緑）、4年生時（茶）と並べてみると、概ね在学期間が増すごとに満足度が上がっていることがわかります。

所属学科（設問9）については1年生時（3.26）から卒業時（3.37）と、上がっていることが解ります。大学や学科の取り組みが、学生から一定の評価を得ていると、捉える事ができます。

図2 学生全体の過去4年間に於いて女子大学についての設問（設問15～17）を見てみると、年を追うごとにポイントが上がっていく傾向が見て取れます。本学に在籍することで女子大について肯定的になっていることが伺えます。

図1 満足度 卒業生 在学期間変遷



お

図2 満足度 学生全体の過去4年間の比較(2018~2021年度)

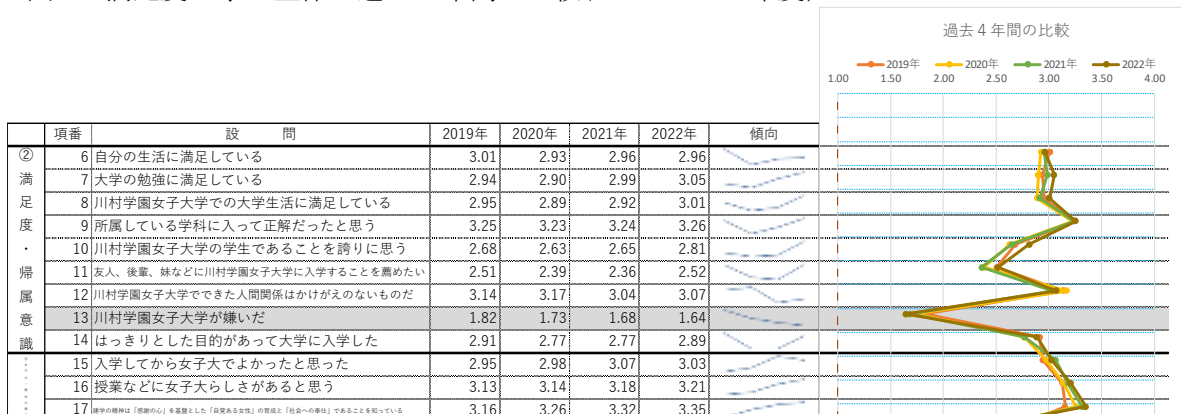
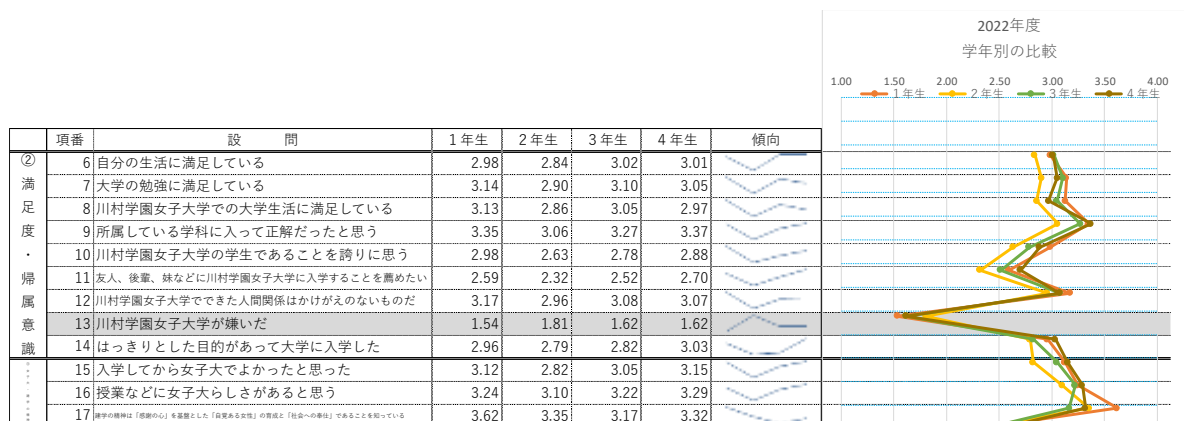


図3 満足度 学年別の比較



2022年度 学生の意欲について

■調査と検証方法■

「学生の意欲」や「キャリア意識」に関わる設問は6問あります。（下図参照）
各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証においては回答をポイント化（「あてはまらない」＝1、「ややあてはまらない」＝2、「ややあてはまる」＝3、「あてはまる」＝4）し、その平均を過去3年の回答と比較しました。2022年度の調査対象者数 991名、回答率 51.36%を検証しました。

■検証■

学生のキャリアに対する意識は例年同様に高い値を示します。（図5「資格に結びつく勉強がした3.46ポイント」「将来について考えている 3.36ポイント」「卒業後の進路について知りたい 3.43ポイント など）

今年は、コロナ禍において下降傾向だった過去2年と比較すると、意欲や意識が回復傾向にある事がわかります。学生の意識が高いうちに、具体的かつ丁寧な支援の取り組みが望まれます。

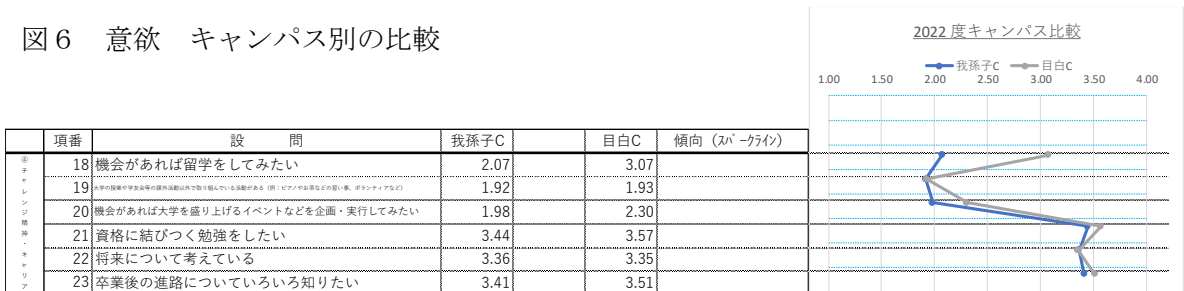
図4 意欲 学年別の比較



図5 意欲 学生全体 過去4年間の推移 (2019～2022年度)



図6 意欲 キャンパス別の比較



2022年度 学修成果・成長実感について

■調査と検証方法■

「学修成果」「成長実感」に関わる設問は20問あります。（下図参照）
各設問に対して、「あてはまらない」「ややあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4択で回答してもらいました。

検証においては回答をポイント化（「あてはまらない」＝1、「ややあてはまらない」＝2、「ややあてはまる」＝3、「あてはまる」＝4）し、その平均を過去の回答と比較しました。

調査対象者数 991名、回答率 51.36%を検証しました。

■検証■

図7卒業生の変遷を見てみると、コロナ禍によりキャンパスでの活動が大きく制限された2年生時（2020年度）では低い値をしています、学年を追うごとに成長実感が上がっていることが解ります。

また、3年生時と4年時を比較すると全20問で、3年生時の回答を上回り「学修成果・成長実感」を感じていることがわかります。

図7 学修成果・成長実感 卒業生変遷
(1年生時～4年生時)

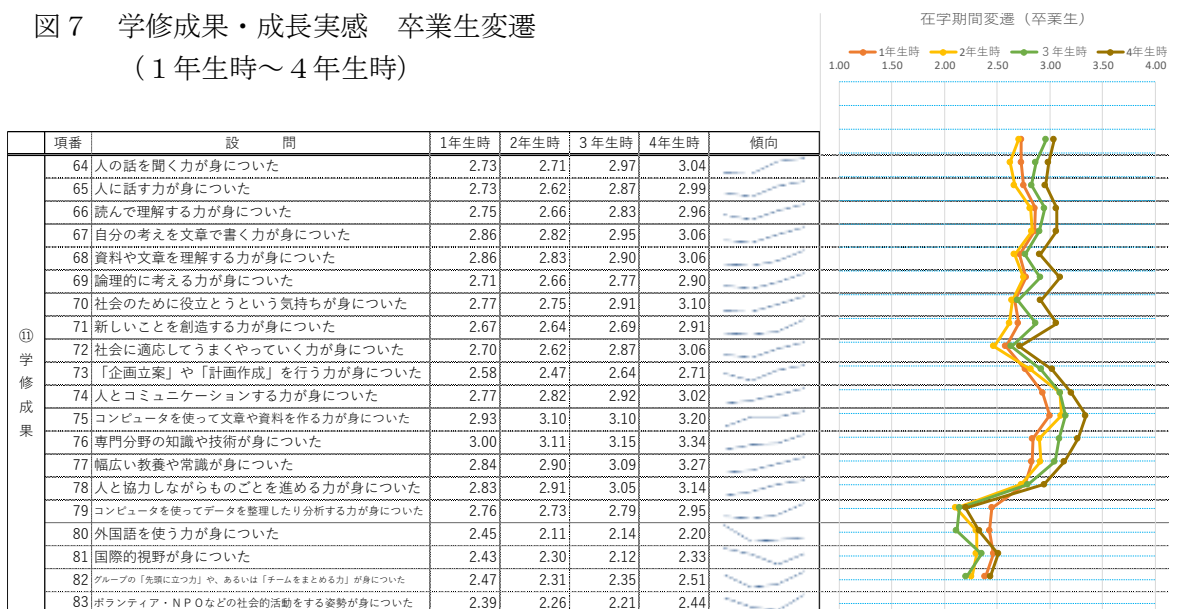


図8 学修成果・成長実感 学年別比較

